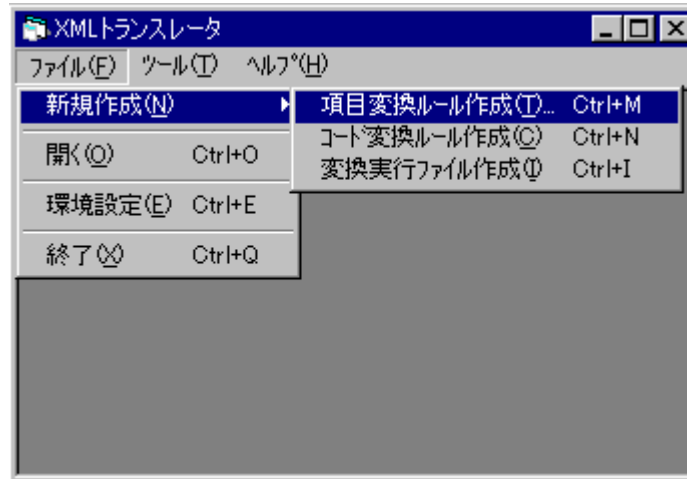


3.6.3 項目変換ルールファイル作成

ここでは、非 XML XML 変換および XML 非 XML 変換に対する項目変換ルールファイルを新規に作成するための操作方法を説明します。

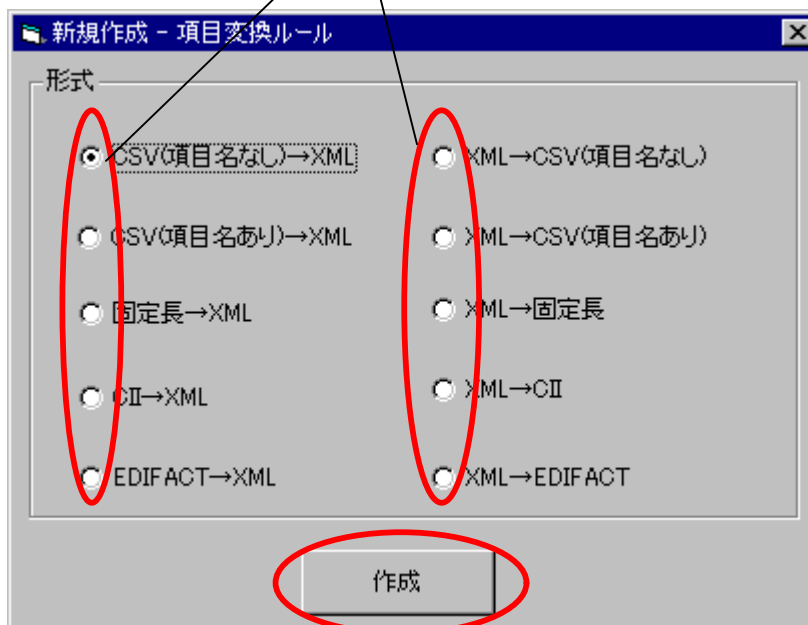
- ・ 項目変換形式選択(1)参照
- ・ 項目変換ルール[CSV(項目名なし) XML]作成(2)参照
- ・ 項目変換ルール[XML CSV(項目名なし)]作成(3)参照
- ・ 項目変換ルール[CSV(項目名あり) XML]作成(4)参照
- ・ 項目変換ルール[XML CSV(項目名あり)]作成(5)参照
- ・ 項目変換ルール[固定長 XML]作成 (6)参照
- ・ 項目変換ルール[XML 固定長]作成 (7)参照
- ・ 項目変換ルール[CII XML]作成(8)参照
- ・ 項目変換ルール[XML CII]作成(9)参照
- ・ 項目変換ルール[EDIFACT XML]作成(10)参照
- ・ 項目変換ルール[XML EDIFACT]作成(11)参照

(A) メニューより[ファイル(F)] [新規作成(N)] [項目変換ルール作成(T)]を選択します。



(B) 「項目変換形式選択画面」が表示されます。

作成する項目変換ルールの形式(非XMLファイルの種類と変換の方向)を選択します。



項目変換形式を選択したら[作成]ボタンをクリックします。

(A) 「項目変換形式の選択画面」で[CSV(項目名なし) XML]を選択し、[作成]ボタンをクリックすると、「項目変換ルール[CSV(項目名なし) XML]作成画面」が開きます。

情報区分コードを選択すると、対応するタグの一覧が表示されます。

ここをチェックすると固定データを指定できます。

タグに対応するデータの CSV ファイル中のカラム位置を指定します。

コメント欄には、自由に文書を記述してください。

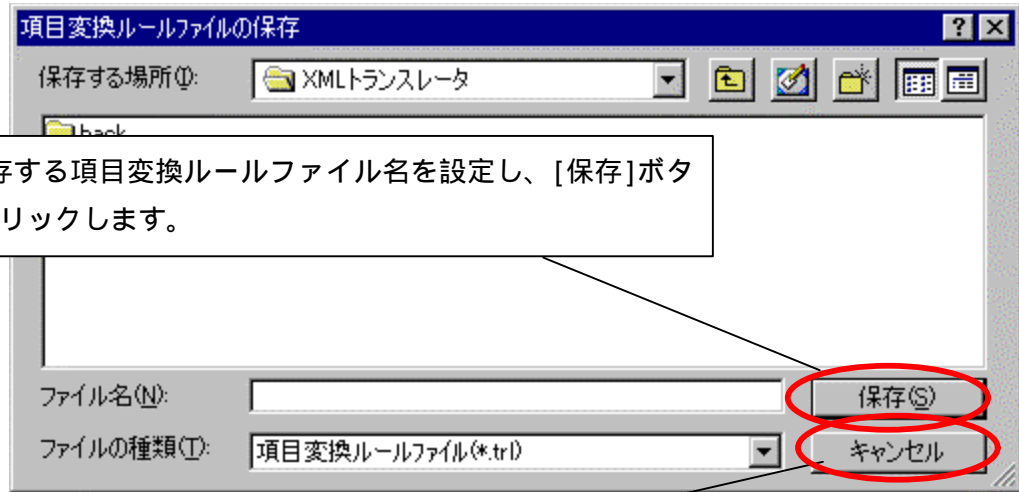
冗長ありの場合は、ここをチェックします。

CSV ファイル中のデータの引用付を選択します。

必要事項を記入したら、[保存]ボタンをクリックし、項目変換ルールファイルに保存します。

XMLタグ	項目番号	項目名	固定	CSV項目順番	固定データ
JPC03		運用モード	<input checked="" type="checkbox"/>	2	
			<input type="checkbox"/>	4	
			<input type="checkbox"/>	6	
			<input type="checkbox"/>	1	
			<input type="checkbox"/>	10	
JPC08		受信センターコ	<input type="checkbox"/>		
JPC10		受信者コード	<input type="checkbox"/>		
JPC11			<input type="checkbox"/>		
JPC12			<input type="checkbox"/>		
JPC09			<input type="checkbox"/>		

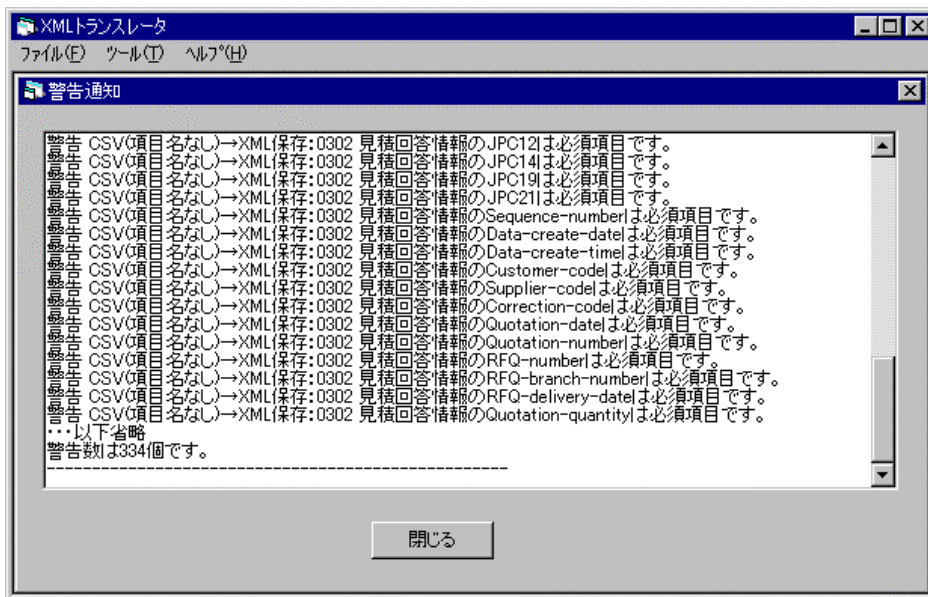
(B) 「項目変換ルール作成画面」で[保存]ボタンをクリックすると、「保存先ファイル選択画面」が開きます。



[キャンセル]ボタンをクリックすると、項目変換ルールファイルの保存を行いません。

<補足事項>

項目変換ルールファイルの保存を行うとき、XMLの必須タグに対して項目変換ルールが定義されているかをチェックし、必須タグに対する項目変換ルールが未定義であれば、警告画面を表示します。



<補足事項>

CSV(項目名なし)では、CSVの各項目をCSV項目順番で指定します。CSV項目順番は、1以上の整数値です。

<補足事項>

項目変換ルールファイルは、XML形式です。項目変換ルールファイルには、すべての情報区分コードに対する項目変換ルールが格納されます。

<補足事項>

情報区分コードを格納するXMLタグはInformation-codeであり、このタグに対するCSV項目順番は、1固定となります。

XMLタグ	CSV項目順番
Information-code	1

<補足事項>

非XML XML変換では、指定するXMLタグに固定値を割り当てることができます。「固定」チェックボックスをチェックすると、固定値を設定することができます。

固定	CSV項目順番	固定データ
<input type="checkbox"/>	1	
<input checked="" type="checkbox"/>		abc

<補足事項>

XMLタグ名や項目名など、画面で表示しきれていない項目は、その項目をマウスでクリックした後、カーソルキーを移動させることにより、見えない部分を表示させることができます。

項目名
運用モード
発信EDIサービス
発信センターコード

→

項目名
運用モード
DIサービス事業
発信センターコード

<補足事項> 冗長あり

「冗長あり」をチェックすると、すべての行にキー項目が出力されたデータとして、非 XML ファイルの読み込みを行います。「冗長あり」をチェックしないと、同じキー項目に対する繰り返し行に対して、先頭の行だけにキー項目が出力されたデータとして、非 XML ファイルの読み込みを行います。

文字列の引用符

(なし)

CSV 形式では項目をカンマ(,)で区切るため、カンマをデータとして与えるためには、特別な引用符が必要となります。「文字列の引用符」によって、CSV ファイルの中で、シングルクォート(')またはダブルクォート(")のどちらの引用符を使用しているのかを指定します。

(A) 「項目変換形式の選択画面」で[XML CSV(項目名なし)]を選択し、[作成]ボタンをクリックすると、「項目変換ルール[XML CSV(項目名なし)]作成画面」が開きます。

情報区分コードを選択すると、対応するタグの一覧が表示されます。

XMLタグ	項目番号	項目名	CSV項目順番
JPC03		運用モード	7
JPC04		発信EDIサービ	4
JPC05		発信センターコ	6
JPC06		発信者コード	11
JPC07		受信EDIサービ	10
JPC08		受信センターコ	
JPC09		受信者コード	
JPC10		BPID機関コード	
JPC11		BPID副機関コ	
JPC12			

タグに対応するデータの CSV ファイル中のカラム位置を指定します。

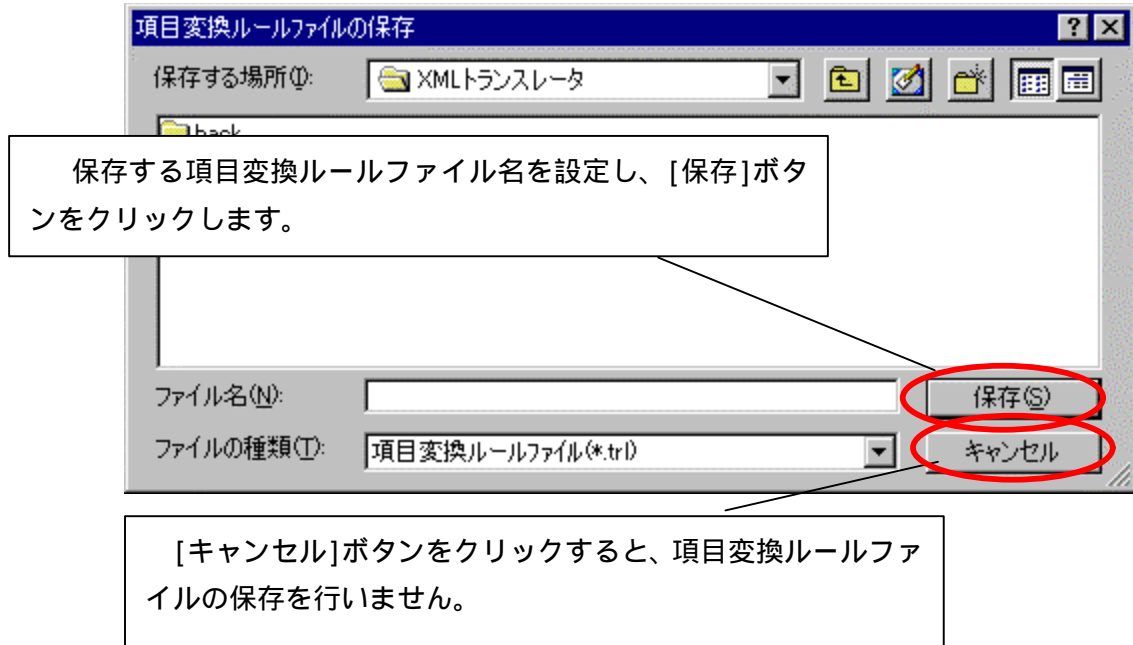
コメント欄には、自由に文書を記述してください。

冗長ありの場合はこちらをチェックします。

CSV ファイル中のデータの引用付を選択します。

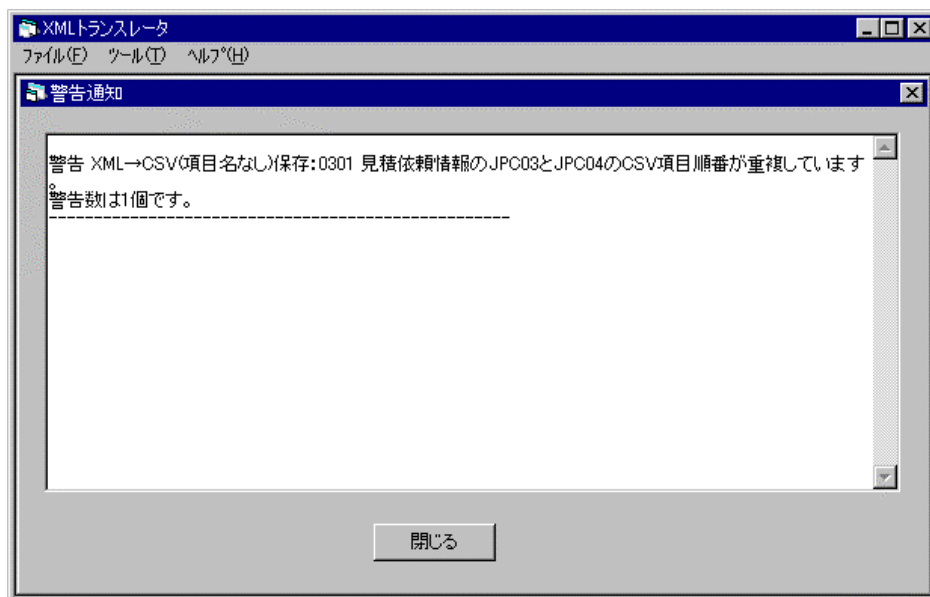
必要事項を記入したら、[保存]ボタンをクリックし、項目変換ルールファイルに保存します。

(B) 「項目変換ルール作成画面」で[保存]ボタンをクリックすると、「保存先ファイル選択画面」が開きます。



<補足事項>

項目変換ルールファイルの保存を行うとき、異なる XML タグに対して同一の非 XML 項目への項目変換ルールが定義されているかをチェックし、異なる XML タグに対して同一の非 XML 項目が定義されていれば、警告画面を表示します。



<補足事項>

CSV(項目名なし)では、CSV の各項目を CSV 項目順番で指定します。CSV 項目順番は、1 以上の整数値です。

<補足事項>

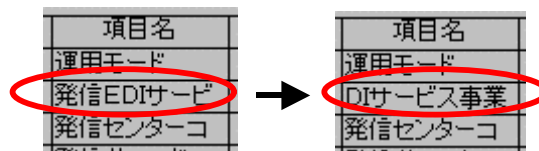
項目変換ルールファイルは、XML 形式です。項目変換ルールファイルには、すべての情報区分コードに対する項目変換ルールが格納されます。

<補足事項>

XML において、情報区分コードは Information-code タグに格納されていなければなりません。XML トランスレータは、Information-code タグの内容から、情報区分コードの値を取得します。

<補足事項>

XML タグ名や項目名など、画面で表示しきれていない項目は、その項目をマウスでクリックした後、カーソルキーを移動させることにより、見えない部分を表示させることができます。



<補足事項> 冗長あり

「冗長あり」をチェックすると、すべての行にキー項目が出力されます。「冗長あり」をチェックしないと、同じキー項目に対する繰り返し行に対して、先頭の行だけにキー項目が出力されます。

文字列の引用符

(なし)

CSV形式では項目をカンマ(,)で区切るため、カンマをデータとして与えるためには、特別な引用符が必要となります。「文字列の引用符」によって、シングルクォート(')またはダブルクォート(")を引用符として指定することができます。

(A) 「項目変換形式の選択画面」で[CSV(項目名あり) XML]を選択し、[作成]ボタンをクリックすると、「項目変換ルール[CSV(項目名あり) XML]作成画面」が開きます。

情報区分コードを選択すると、対応するタグの一覧が表示されます。

情報区分コードを格納する CSV 項目名を指定します。

ここをチェックすると固定データを指定できます。

XMLタグ	項目番号	項目名	固定	CSV項目名	固定データ
JPC03		運用モード	<input type="checkbox"/>	運用モード	
JPC04		発信EDIサービス事業	<input checked="" type="checkbox"/>		FFFF
JPC05		発信センターコード	<input type="checkbox"/>	発信センター	
JPC06		発信者コード	<input type="checkbox"/>	発信コード	
JPC07		発信EDIサービス事業	<input type="checkbox"/>		
JPC08		運用モード	<input type="checkbox"/>	運用モード	
JPC09		発信EDIサービス事業	<input type="checkbox"/>		
JPC10		発信EDIサービス事業	<input type="checkbox"/>		
JPC11		発信EDIサービス事業	<input type="checkbox"/>		
JPC12		発信EDIサービス事業	<input type="checkbox"/>		

タグに対応するデータの CSV ファイル中の項目名を指定します。

項目名を一括コピーするには、このボタンをクリックします。

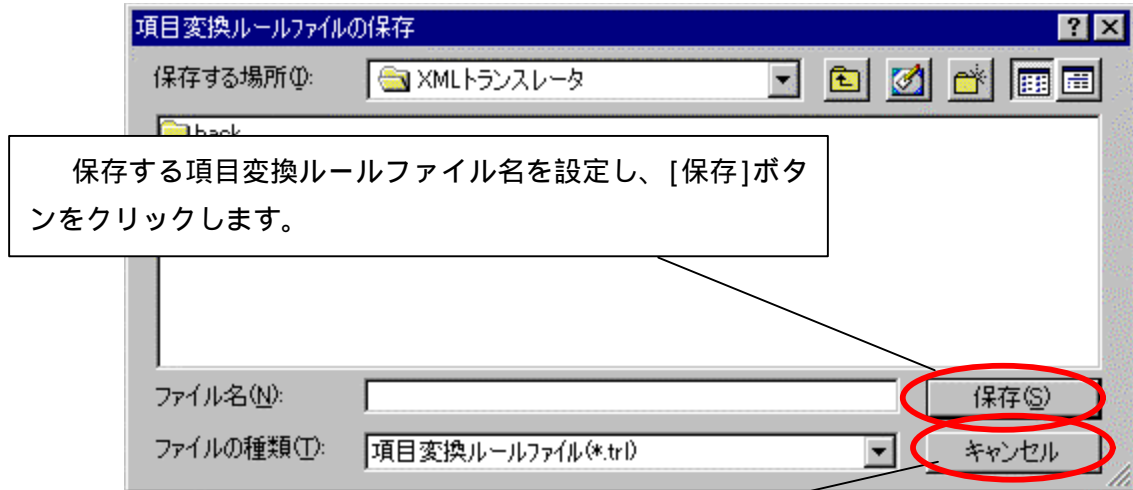
コメント欄には、自由に文書を記述してください。

冗長ありの場合は、ここをチェックします。

CSV ファイル中のデータの引用付を選択します。

必要事項を記入したら、[保存]ボタンをクリックし、項目変換ルールファイルに保存します。

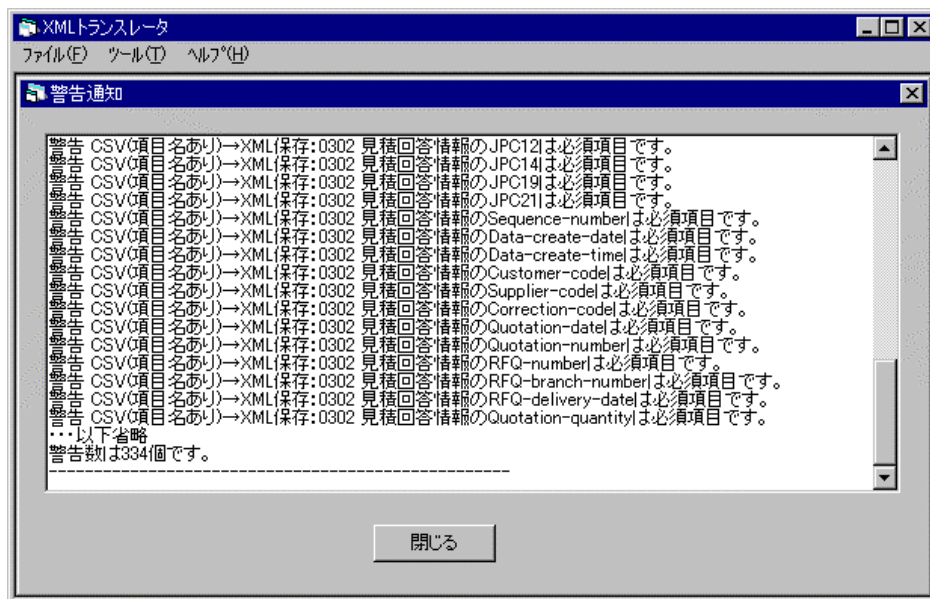
(B) 「項目変換ルール作成画面」で[保存]ボタンをクリックすると、「保存先ファイル選択画面」が開きます。



[キャンセル]ボタンをクリックすると、項目変換ルールファイルの保存を行いません。

<補足事項>

項目変換ルールファイルの保存を行うとき、XMLの必須タグに対して項目変換ルールが定義されているかをチェックし、必須タグに対する項目変換ルールが未定義であれば、警告画面を表示します。



<補足事項>

CSV(項目名あり)では、CSV の各項目を CSV 項目名で指定します。CSV 項目名は、任意の文字列です。CSV(項目名あり)のファイルは、最初の行に項目名が並び、以降の行では、項目名に対応した位置に各項目に対する値が格納されます。

<補足事項>

項目変換ルールファイルは、XML 形式です。項目変換ルールファイルには、すべての情報区分コードに対する項目変換ルールが格納されます。

<補足事項>

情報区分コードを格納する XML タグは Information-code であり、このタグに対する CSV 項目名は必ず指定しなければなりません。

XMLタグ	CSV項目名
Information-code	情報区分コード

情報区分コードを格納する CSV 項目名が入力されていない場合、項目変換ルールファイルの保存を行うと、エラー画面が表示されます。



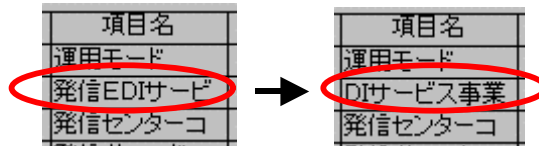
<補足事項>

非 XML XML 変換では、指定する XML タグに固定値を割り当てることができます。「固定」チェックボックスをチェックすると、固定値を設定することができます。

固定	CSV項目名	固定データ
<input type="checkbox"/>	運用モード	
<input checked="" type="checkbox"/>	情報区分コード	FFFF

<補足事項>

XML タグ名や項目名など、画面で表示しきれていない項目は、その項目をマウスでクリックした後、カーソルキーを移動させることにより、見えない部分を表示させることができます。

**<補足事項>**

冗長あり

「冗長あり」をチェックすると、すべての行にキー項目が出力されたデータとして、非 XML ファイルの読み込みを行います。「冗長あり」をチェックしないと、同じキー項目に対する繰り返し行に対して、先頭の行だけにキー項目が出力されたデータとして、非 XML ファイルの読み込みを行います。

文字列の引用符

CSV 形式では項目をカンマ(,)で区切るため、カンマをデータとして与えるためには、特別な引用符が必要となります。「文字列の引用符」によって、CSV ファイルの中で、シングルクォート(')またはダブルクォート(")のどちらの引用符を使用しているのかを指定します。

(A) 「項目変換形式の選択画面」で[XML CSV(項目名あり)]を選択し、[作成]ボタンをクリックすると、「項目変換ルール[XML CSV(項目名あり)]作成画面」が開きます。

情報区分コードを選択すると、対応するタグの一覧が表示されます。

タグに対応するデータの CSV ファイル中の CSV 項目名を指定します。

名	運用モード	CSV項目名
業者コード		
発信センターコード		発信センター
発信者コード		発信コード
受信EDIサービス事業者コード		
受信センターコード		
受信者コード		

項目名を一括コピーするには、このボタンをクリックします。

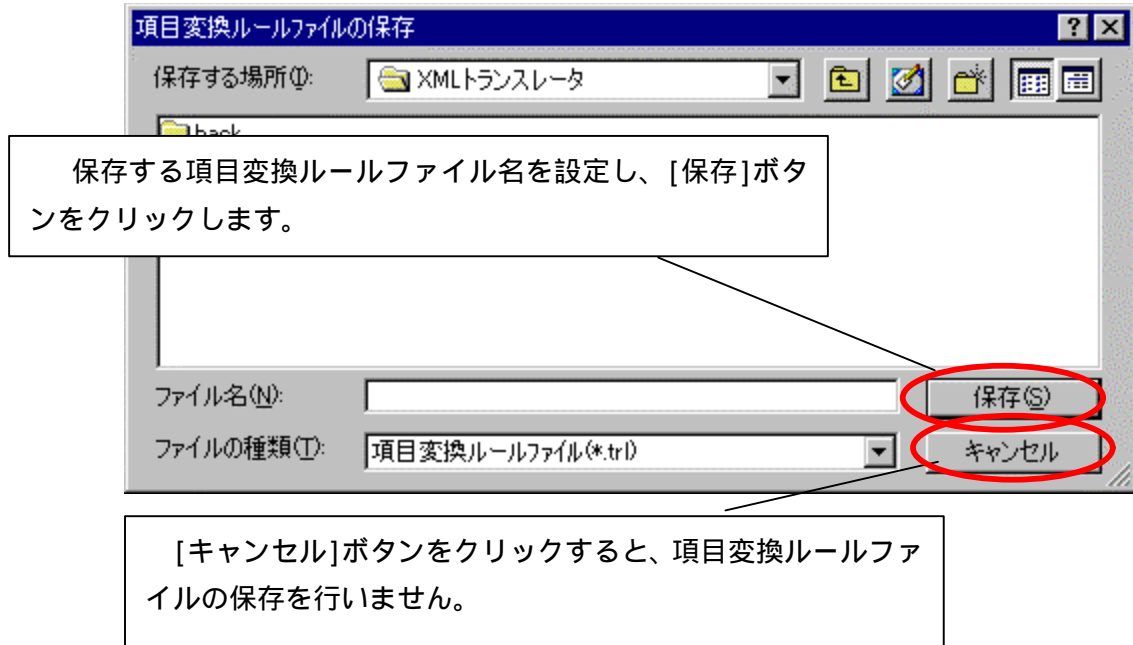
コメント欄には、自由に文書を記述してください。

冗長ありの場合はこちらをチェックします。

CSV ファイル中のデータの引用付を選択します。

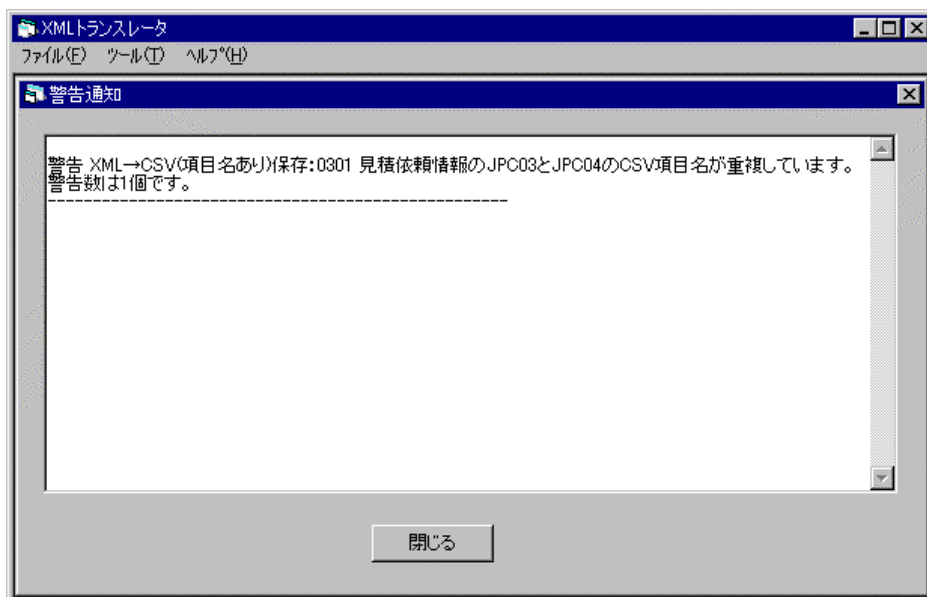
必要事項を記入したら、[保存]ボタンをクリックし、項目変換ルールファイルに保存します。

(B) 「項目変換ルール作成画面」で[保存]ボタンをクリックすると、「保存先ファイル選択画面」が開きます。



<補足事項>

項目変換ルールファイルの保存を行うとき、異なる XML タグに対して同一の非 XML 項目への項目変換ルールが定義されているかをチェックし、異なる XML タグに対して同一の非 XML 項目が定義されていれば、警告画面を表示します。



<補足事項>

CSV(項目名あり)では、CSVの各項目をCSV項目名で指定します。CSV項目名は、任意の文字列です。CSV(項目名あり)のファイルは、最初の行に項目名が並び、以降の行では、項目名に対応した位置に各項目に対する値が格納されます。

<補足事項>

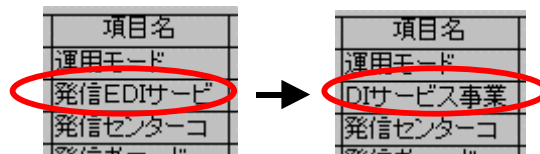
項目変換ルールファイルは、XML形式です。項目変換ルールファイルには、すべての情報区分コードに対する項目変換ルールが格納されます。

<補足事項>

XMLにおいて、情報区分コードはInformation-codeタグに格納されていなければなりません。XMLトランスレータは、Information-codeタグの内容から、情報区分コードの値を取得します。

<補足事項>

XMLタグ名や項目名など、画面で表示しきれない項目は、その項目をマウスでクリックした後、カーソルキーを移動させることにより、見えない部分を表示させることができます。



<補足事項> 冗長あり

「冗長あり」をチェックすると、すべての行にキー項目が出力されます。「冗長あり」をチェックしないと、同じキー項目に対する繰り返し行に対して、先頭の行だけにキー項目が出力されます。

文字列の引用符

(なし)

CSV 形式では項目をカンマ(,)で区切るため、カンマをデータとして与えるためには、特別な引用符が必要となります。「文字列の引用符」によって、シングルクォート(')またはダブルクォート(")を引用符として指定することができます。

(A) 「項目変換形式の選択画面」で[固定長 XML]を選択し、[作成]ボタンをクリックすると、「項目変換ルール[固定長 XML]作成画面」が開きます。

情報区分コードを選択すると、対応するタグの一覧が表示されます。

情報区分コードのデータ長を指定します。

ここをチェックすると固定データを指定できます。

XMLタグ	項目番号	項目名	固定	カラム位置	データ長	固定データ
JPC03		運用モード	<input type="checkbox"/>	11	10	
JPC04		発信EDIサービ	<input checked="" type="checkbox"/>	21	10	FFFF
JPC05			<input type="checkbox"/>	31	5	
JPC06			<input type="checkbox"/>	36	5	
JPC07			<input type="checkbox"/>			
JPC08			<input type="checkbox"/>			
JPC09			<input type="checkbox"/>			
JPC10			<input type="checkbox"/>			
JPC11		BPID副機関コ	<input type="checkbox"/>			
JPC12			<input type="checkbox"/>			

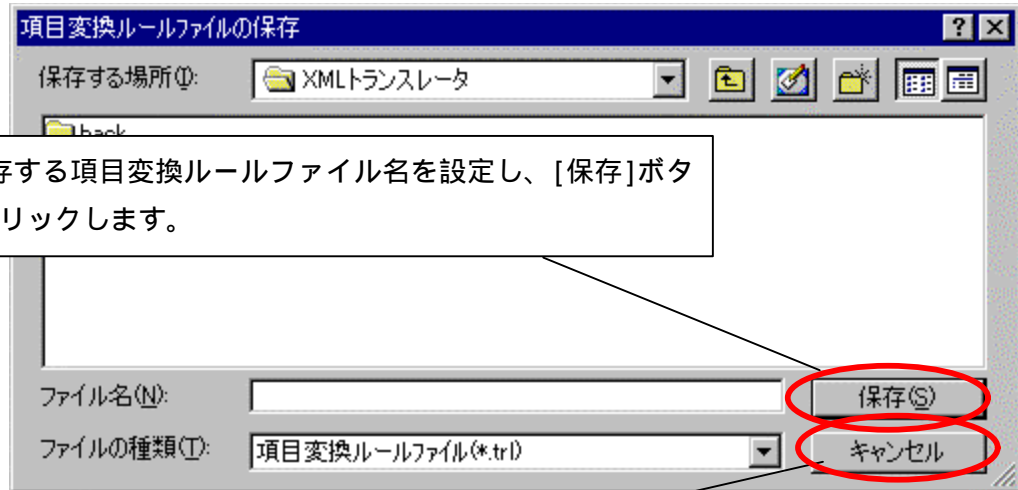
タグに対応するデータの固定長ファイル中の、カラム位置およびデータ長を指定します。

コメント欄には、自由に文書を記述してください。

冗長ありの場合は、ここをチェックします。

必要事項を記入したら、[保存]ボタンをクリックし、項目変換ルールファイルに保存します。

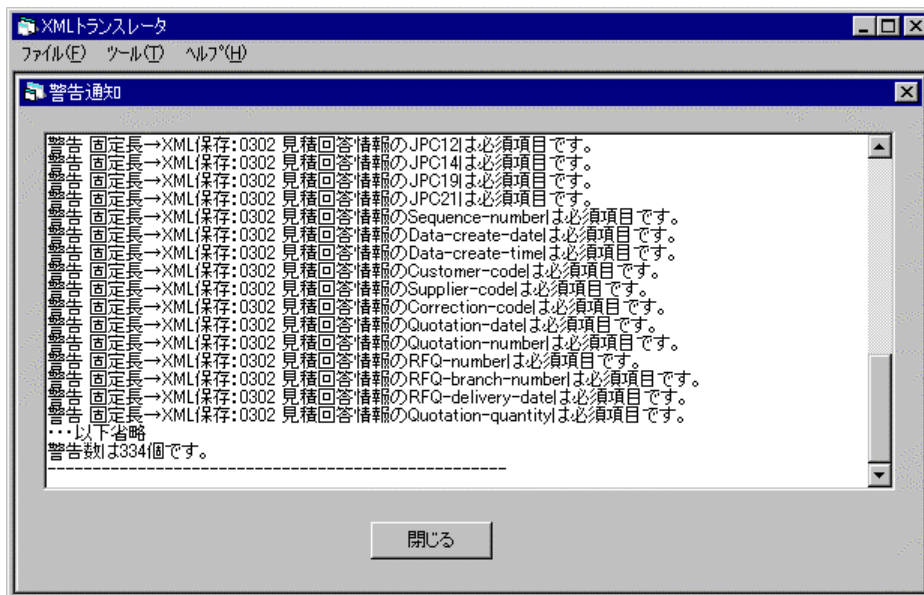
(B) 「項目変換ルール作成画面」で[保存]ボタンをクリックすると、「保存先ファイル選択画面」が開きます。



[キャンセル]ボタンをクリックすると、項目変換ルールファイルの保存を行いません。

<補足事項>

項目変換ルールファイルの保存を行うとき、XMLの必須タグに対して項目変換ルールが定義されているかをチェックし、必須タグに対する項目変換ルールが未定義であれば、警告画面を表示します。



<補足事項>

固定長では、ファイル中の各項目をカラム位置およびデータ長で指定します。カラム位置およびデータ長は1以上の整数値です。

<補足事項>

項目変換ルールファイルは、XML形式です。項目変換ルールファイルには、すべての情報区分コードに対する項目変換ルールが格納されます。

<補足事項>

情報区分コードを格納するXMLタグはInformation-codeであり、このタグに対するカラム位置は1固定ですが、データ長は必ず指定しなければなりません。

XMLタグ	カラム位置	データ長
Information-code	1	4

情報区分コードのデータ長が入力されていない場合、項目変換ルールファイルの保存を行うと、エラー画面が表示されます。



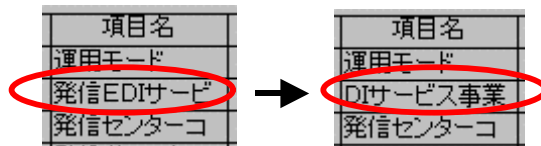
<補足事項>

非XML XML変換では、指定するXMLタグに固定値を割り当てることができます。「固定」チェックボックスをチェックすると、固定値を設定することができます。

固定	カラム位置	データ長	固定データ
<input type="checkbox"/>	11	10	
<input checked="" type="checkbox"/>			FFFF

<補足事項>

XML タグ名や項目名など、画面で表示しきれていない項目は、その項目をマウスでクリックした後、カーソルキーを移動させることにより、見えない部分を表示させることができます。

**<補足事項>** 冗長あり

「冗長あり」をチェックすると、すべての行にキー項目が出力されたデータとして、非 XML ファイルの読み込みを行います。「冗長あり」をチェックしないと、同じキー項目に対する繰り返し行に対して、先頭の行だけにキー項目が出力されたデータとして、非 XML ファイルの読み込みを行います。

(A) 「項目変換形式の選択画面」で[XML 固定長]を選択し、[作成]ボタンをクリックすると、「項目変換ルール[XML 固定長]作成画面」が開きます。

情報区分コードを選択すると、対応するタグの一覧が表示されます。

タグに対応するデータの固定長ファイル中の、カラム位置およびデータ長を指定します。

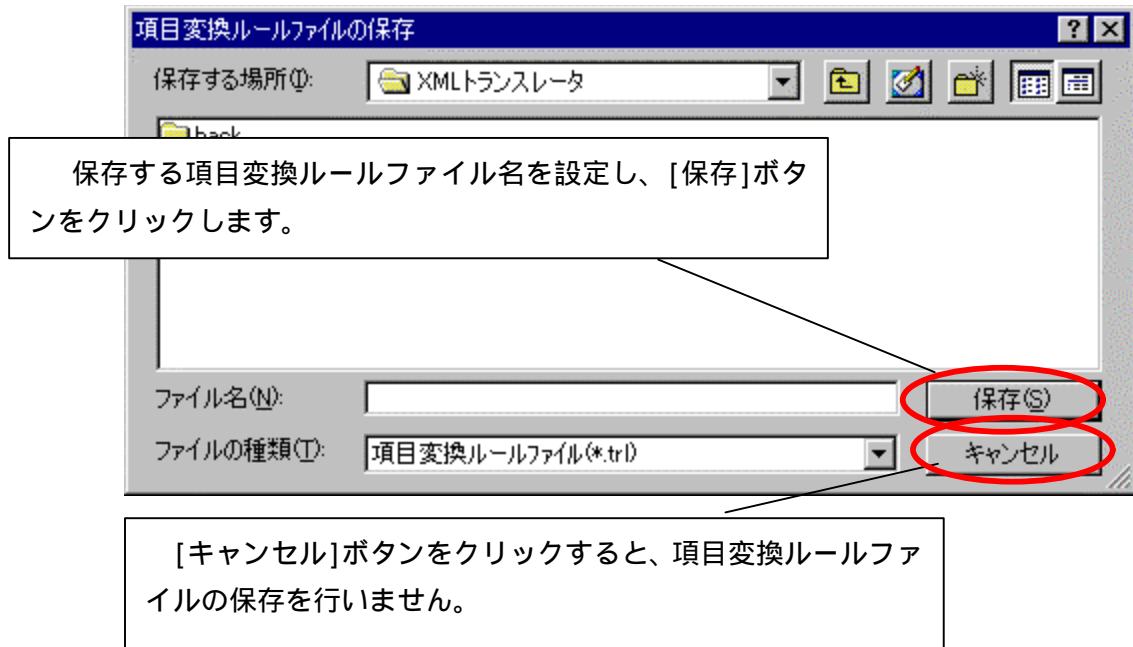
XMLタグ	項目番号	項目名	カラム位置	データ長
JPC03		運用モード	11	10
JPC04		発信EDIサービ		
JPC05		発信センターコ	21	10
JPC06		発信者コード	31	5
JPC07		受信EDIサービ	36	5
JPC08		受信センターコ		
JPC09		受信者コード		
JPC10		BPID機関コード		
JPC11		BPID副機関コ		
JPC12		BPID版		

コメント欄には、自由に文書を記述してください。

冗長ありの場合はここをチェックします。

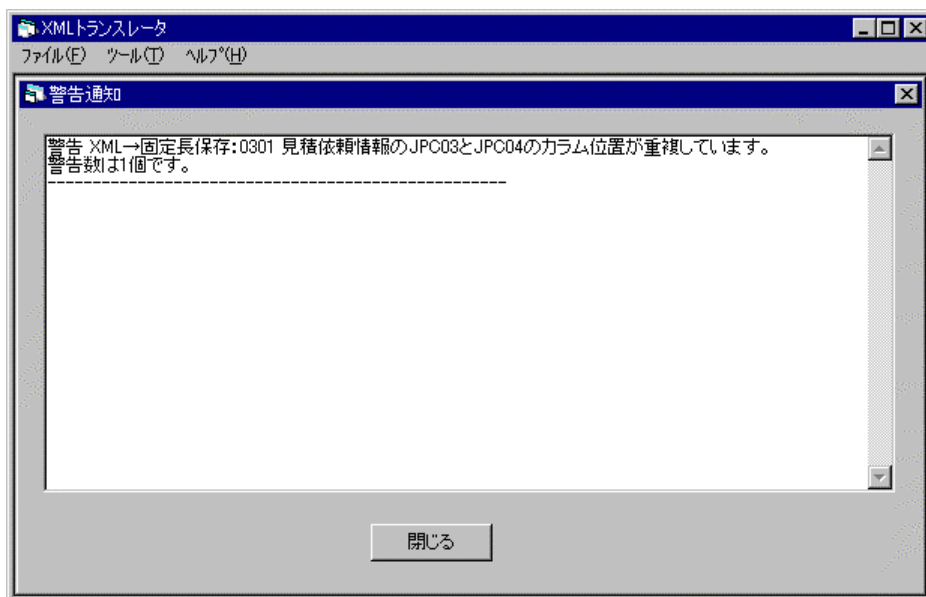
必要事項を記入したら、[保存]ボタンをクリックし、項目変換ルールファイルに保存します。

(B) 「項目変換ルール作成画面」で[保存]ボタンをクリックすると、「保存先ファイル選択画面」が開きます。



<補足事項>

項目変換ルールファイルの保存を行うとき、異なる XML タグに対して同一の非 XML 項目への項目変換ルールが定義されているかをチェックし、異なる XML タグに対して同一の非 XML 項目が定義されていれば、警告画面を表示します。



<補足事項>

固定長では、ファイル中の各項目をカラム位置およびデータ長で指定します。カラム位置およびデータ長は1以上の整数値です。

<補足事項>

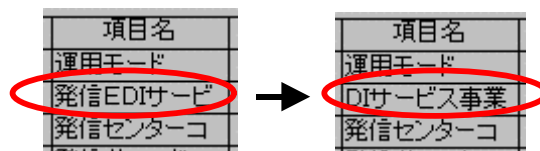
項目変換ルールファイルは、XML形式です。項目変換ルールファイルには、すべての情報区分コードに対する項目変換ルールが格納されます。

<補足事項>

XMLにおいて、情報区分コードはInformation-codeタグに格納されていなければなりません。XMLトランスレータは、Information-codeタグの内容から、情報区分コードの値を取得します。

<補足事項>

XMLタグ名や項目名など、画面で表示しきれない項目は、その項目をマウスでクリックした後、カーソルキーを移動させることにより、見えない部分を表示させることができます。

**<補足事項>**

冗長あり

「冗長あり」をチェックすると、すべての行にキー項目が出力されたデータとして、非XMLファイルの読み込みを行います。「冗長あり」をチェックしないと、同じキー項目に対する繰り返し行に対して、先頭の行だけにキー項目が出力されたデータとして、非XMLファイルの読み込みを行います。

(A) 「項目変換形式の選択画面」で[CII XML]を選択し、[作成]ボタンをクリックすると、「項目変換ルール[CII XML]作成画面」が開きます。

情報区分コードを選択すると、対応するタグの一覧が表示されます。

ここをチェックすると固定データを指定できます。

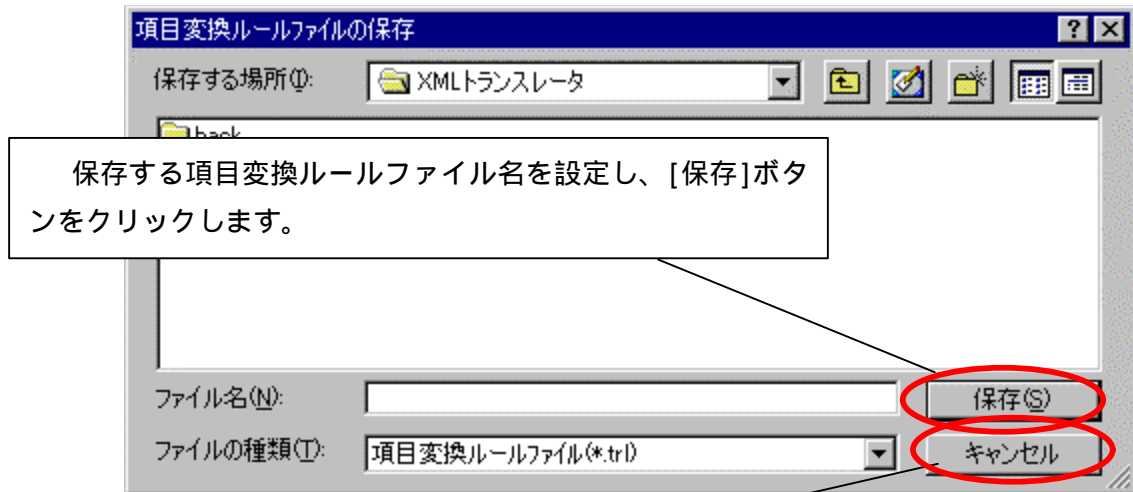
XMLタグ	項目番号	項目名	固定	CIIタグ名	固定データ
JPC30		発信EDIサービ	<input checked="" type="checkbox"/>	C30	
JPC		コ	<input type="checkbox"/>		XYZ
JPC		管	<input type="checkbox"/>		
JPC		コ	<input checked="" type="checkbox"/>		ABCD
JPC		管	<input type="checkbox"/>	C35	
Sequence-number	59001	シーケンス番号	<input type="checkbox"/>	59001	
Data-create-date	00003	データ作成日	<input type="checkbox"/>	00003	
Data-create-time	59002	データ作成時刻	<input type="checkbox"/>		
Customer-code	00004	発注者コード	<input type="checkbox"/>		

タグに対応するデータの CII ファイル中の、MGH 記号名または利用者データタグを指定します。

コメント欄には、自由に文書を記述してください。

必要事項を記入したら、[保存]ボタンをクリックし、項目変換ルールファイルに保存します。

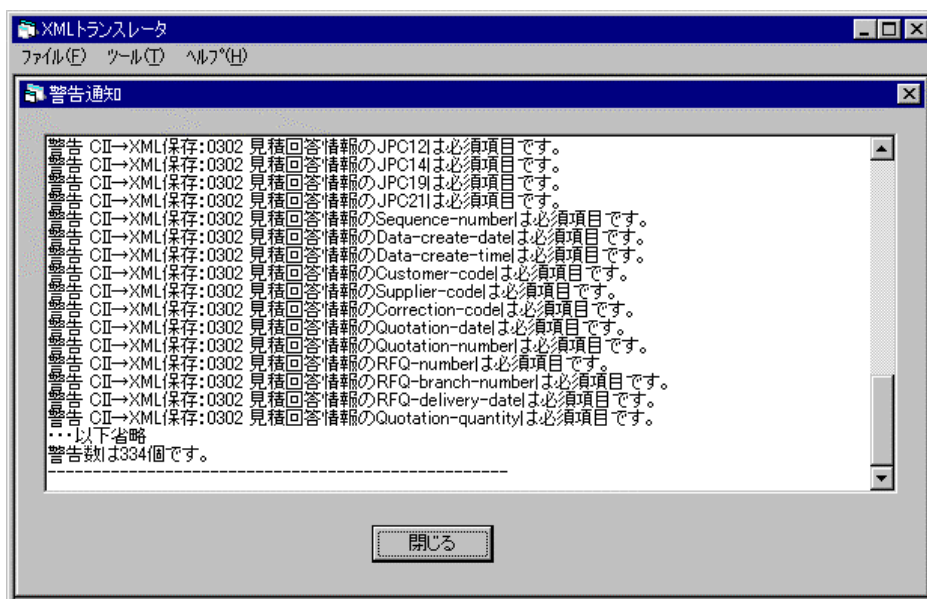
(B) 「項目変換ルール作成画面」で[保存]ボタンをクリックすると、「保存先ファイル選択画面」が開きます。



[キャンセル]ボタンをクリックすると、項目変換ルールファイルの保存を行いません。

<補足事項>

項目変換ルールファイルの保存を行うとき、XMLの必須タグに対して項目変換ルールが定義されているかをチェックし、必須タグに対する項目変換ルールが未定義であれば、警告画面を表示します。



<補足事項>

CII では、ファイル中の各項目を MGH 記号名または利用者データタグで指定します。MGH 記号名には、C03 ~ C09、C10 ~ C12、C14、C17 ~ C19、C21 ~ C25、C29 ~ C35 のいずれかを指定します。
利用者データタグには、0 ~ 61439、65536 ~ 524287 の整数値を指定します。

<補足事項>

項目変換ルールファイルは、XML 形式です。項目変換ルールファイルには、すべての情報区分コードに対する項目変換ルールが格納されます。

<補足事項>

情報区分コードを格納する XML タグは Information-code であり、このタグに対する CII タグ名は C14 固定です。

XMLタグ	CIIタグ名
Information-code	C14

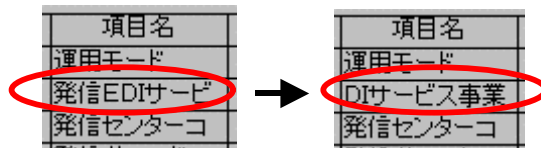
<補足事項>

非 XML XML 変換では、指定する XML タグに固定値を割り当てることができます。「固定」チェックボックスをチェックすると、固定値を設定することができます。

固定	CIIタグ名	固定データ
<input type="checkbox"/>	C30	
<input checked="" type="checkbox"/>		XYZ

<補足事項>

XML タグ名や項目名など、画面で表示しきれていない項目は、その項目をマウスでクリックした後、カーソルキーを移動させることにより、見えない部分を表示させることができます。



(A) 「項目変換形式の選択画面」で[XML CII]を選択し、[作成]ボタンをクリックすると、「項目変換ルール[XML CII]作成画面」が開きます。

情報区分コードを選択すると、対応するタグの一覧が表示されます。

項目変換ルール		CIIタグ名
JPC31		発信センターコ
JPC32		発信者コード管
JPC33		受信EDIサービ
JPC34		受信センターコ
JPC35		受信者コード管
Sequence-number	59001	シーケンス番号
Information-code	00002	情報区分コード
Data-create-date	00003	データ作成日
Data-create-time	59002	データ作成時刻

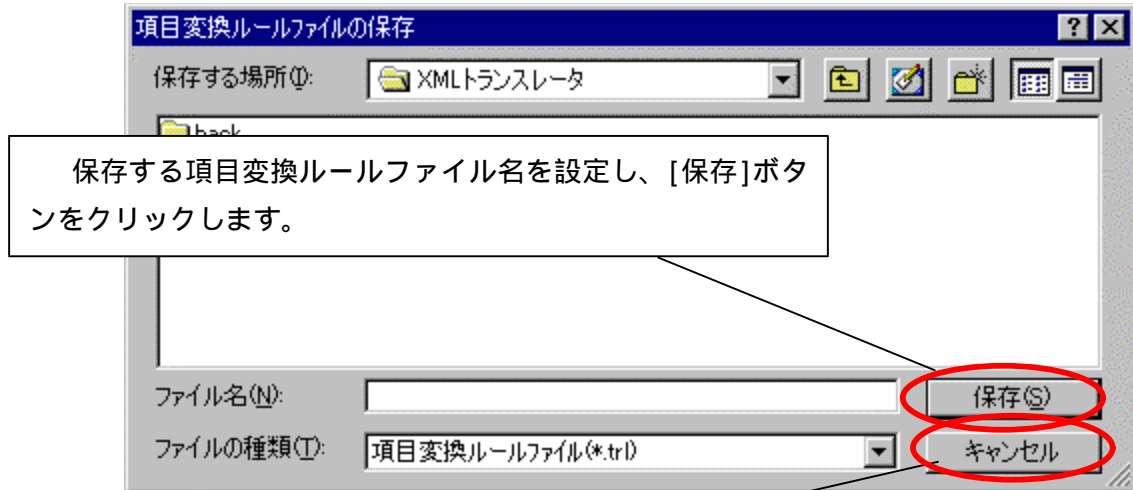
タグに対応するデータの CII ファイル中の、MGH 記号名または利用者データタグを指定します。

コメント欄には、自由に文書を記述してください。

保存

必要事項を記入したら、[保存]ボタンをクリックし、項目変換ルールファイルに保存します。

(B) 「項目変換ルール作成画面」で[保存]ボタンをクリックすると、「保存先ファイル選択画面」が開きます。



[キャンセル]ボタンをクリックすると、項目変換ルールファイルの保存を行いません。

<補足事項>

項目変換ルールファイルの保存を行うとき、異なる XML タグに対して同一の非 XML 項目への項目変換ルールが定義されているかをチェックし、異なる XML タグに対して同一の非 XML 項目が定義されていれば、警告画面を表示します。



<補足事項>

CII では、ファイル中の各項目を MGH 記号名または利用者データタグで指定します。MGH 記号名には、C03 ~ C09、C10 ~ C12、C14、C17 ~ C19、C21 ~ C25、C29 ~ C35 のいずれかを指定します。

利用者データタグには、0 ~ 61439、65536 ~ 524287 の整数値を指定します。

<補足事項>

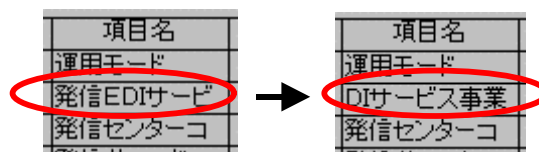
項目変換ルールファイルは、XML 形式です。項目変換ルールファイルには、すべての情報区分コードに対する項目変換ルールが格納されます。

<補足事項>

XML において、情報区分コードは Information-code タグに格納されていなければなりません。XML トランスレータは、Information-code タグの内容から、情報区分コードの値を取得します。

<補足事項>

XML タグ名や項目名など、画面で表示しきれない項目は、その項目をマウスでクリックした後、カーソルキーを移動させることにより、見えない部分を表示させることができます。



(A) 「項目変換形式の選択画面」で[EDIFACT XML]を選択し、[作成]ボタンをクリックすると、「項目変換ルール[EDIFACT XML]作成画面」が開きます。

情報区分コードを選択すると、対応するタグの一覧が表示されます。

ここをチェックすると固定データを指定できます。

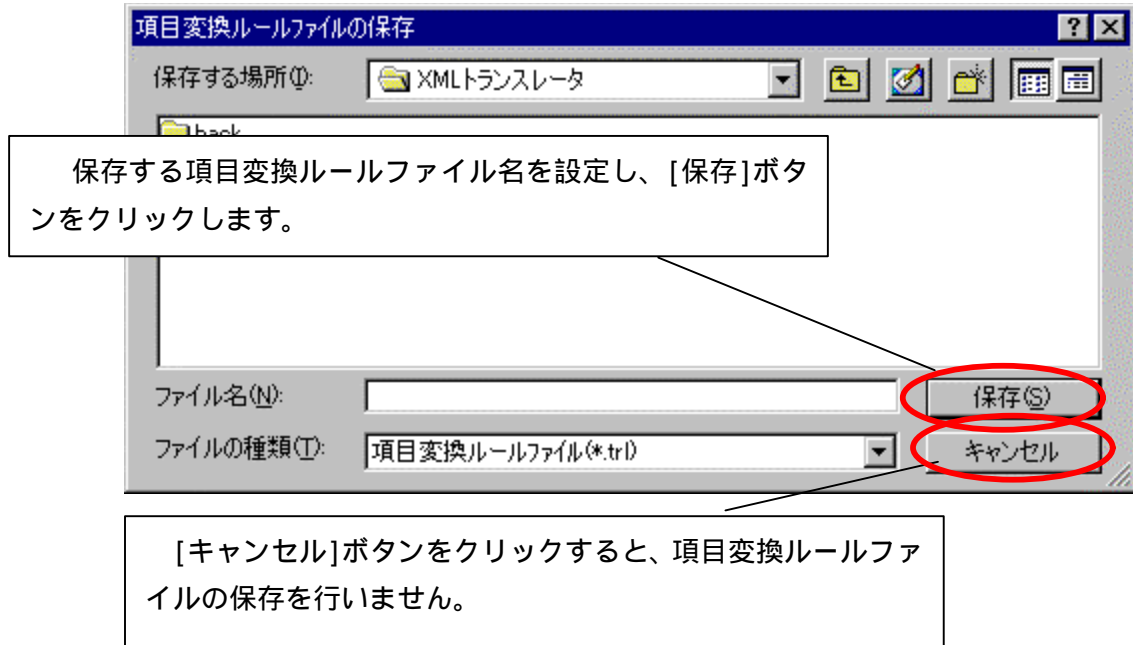
XMLタグ	項目番号	項目名	固定	セグメントタグ名	POS	TAG	固定データ
JPC30		発信EDIサービ	<input type="checkbox"/>	UNH	3	2	
JPC31		発信セグメント	<input checked="" type="checkbox"/>	UNB	2	3	XYZ
			<input type="checkbox"/>	UNG	1	1	
			<input type="checkbox"/>	UNB	2	3	
			<input type="checkbox"/>	SEQ	1	1	
			<input type="checkbox"/>	SEQ	1	2	

タグに対応するデータのEDIFACTファイル中の、セグメントタグ名、POS および TAG を指定します。

コメント欄には、自由に文書を記述してください。

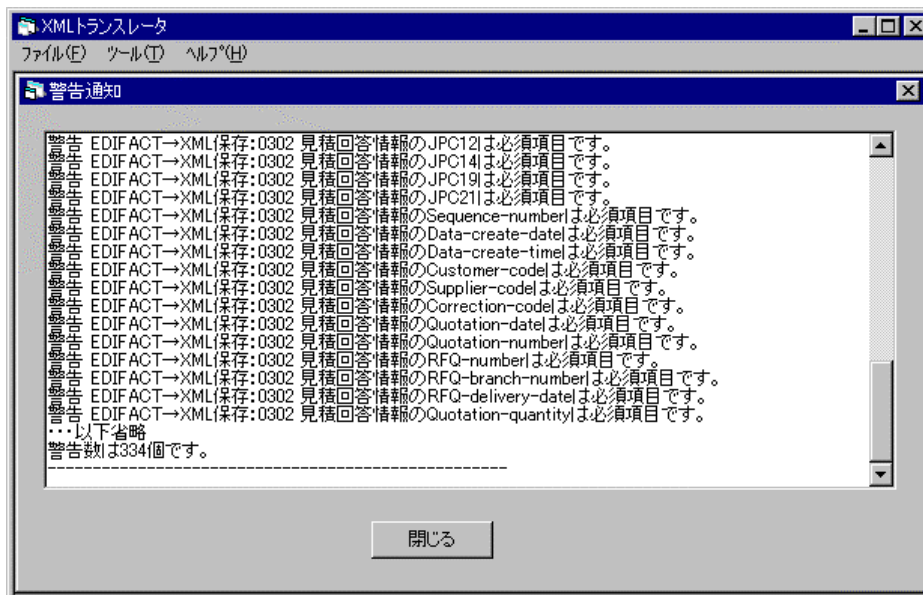
必要事項を記入したら、[保存]ボタンをクリックし、項目変換ルールファイルに保存します。

(B) 「項目変換ルール作成画面」で[保存]ボタンをクリックすると、「保存先ファイル選択画面」が開きます。



<補足事項>

項目変換ルールファイルの保存を行うとき、XMLの必須タグに対して項目変換ルールが定義されているかをチェックし、必須タグに対する項目変換ルールが未定義であれば、警告画面を表示します。



<補足事項>

EDIFACT では、ファイル中の各項目を、セグメントタグ名、POS および TAG で指定します。

セグメントタグ名には、UNB、UNB、UNH、または('U'で始まらない)任意の英字文字列を指定します。

POS には、セグメントにおける複合データ要素の位置(出現順番)を、1 以上の整数値で指定します。

TAG には、複合データ要素内でのデータ要素の位置(出現順番)を、1 以上の整数値で指定します。

<補足事項>

項目変換ルールファイルは、XML 形式です。項目変換ルールファイルには、すべての情報区分コードに対する項目変換ルールが格納されます。

<補足事項>

情報区分コードを格納する XML タグは Information-code であり、このタグに対するセグメントタグ名は UNH、POS は 2、TAG は 1(UNH S009/0065)にそれぞれ固定です。

XMLタグ	セグメントタグ名	POS	TAG
Information-code	UNH	2	1

<補足事項>

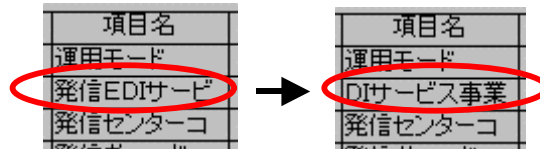
非 XML XML 変換では、指定する XML タグに固定値を割り当てることができます。

「固定」チェックボックスをチェックすると、固定値を設定することができます。

固定	セグメントタグ名	POS	TAG	固定データ
<input type="checkbox"/>	UNH	3	2	
<input checked="" type="checkbox"/>				XYZ

<補足事項>

XML タグ名や項目名など、画面で表示しきれていない項目は、その項目をマウスでクリックした後、カーソルキーを移動させることにより、見えない部分を表示させることができます。



(A) 「項目変換形式の選択画面」で[XML EDIFACT]を選択し、[作成]ボタンをクリックすると、「項目変換ルール[XML EDIFACT]作成画面」が開きます。

情報区分コードを選択すると、対応するタグの一覧が表示されます。

タグに対応するデータの EDIFACT ファイル中の、セグメントタグ名、POS および TAG を指定します。

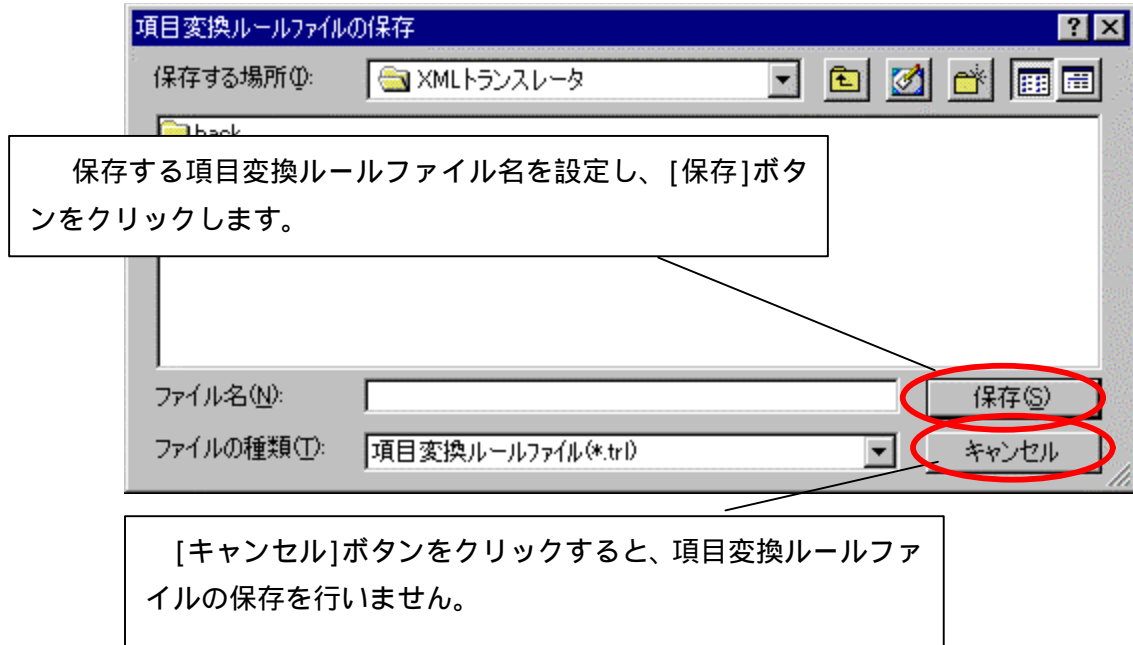
セグメント名	POS	TAG
NH	3	2
JPC32		
JPC33		
JPC34		
JPC35		
Sequence-number	59001	
Information-code	00002	
Data-create-date	00003	
Data-create-time	59002	

コメント欄には、自由に文書を記述してください。

保存

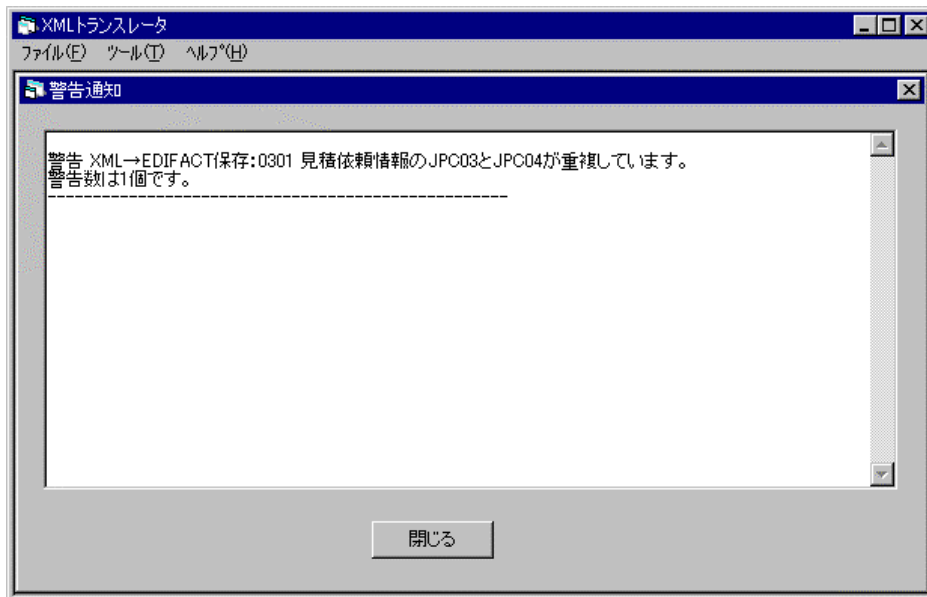
必要事項を記入したら、[保存]ボタンをクリックし、項目変換ルールファイルに保存します。

(B) 「項目変換ルール作成画面」で[保存]ボタンをクリックすると、「保存先ファイル選択画面」が開きます。



<補足事項>

項目変換ルールファイルの保存を行うとき、異なる XML タグに対して同一の非 XML 項目への項目変換ルールが定義されているかをチェックし、異なる XML タグに対して同一の非 XML 項目が定義されていれば、警告画面を表示します。



<補足事項>

EDIFACT では、ファイル中の各項目を、セグメントタグ名、POS および TAG で指定します。

セグメントタグ名には、UNB、UNB、UNH、または('U'で始まらない)任意の英字文字列を指定します。

POS には、セグメントにおける複合データ要素の位置(出現順番)を、1 以上の整数値で指定します。

TAG には、複合データ要素内でのデータ要素の位置(出現順番)を、1 以上の整数値で指定します。

<補足事項>

項目変換ルールファイルは、XML 形式です。項目変換ルールファイルには、すべての情報区分コードに対する項目変換ルールが格納されます。

<補足事項>

XML において、情報区分コードは Information-code タグに格納されていなければなりません。XML トランスレータは、Information-code タグの内容から、情報区分コードの値を取得します。

<補足事項>

XML タグ名や項目名など、画面で表示しきれていない項目は、その項目をマウスでクリックした後、カーソルキーを移動させることにより、見えない部分を表示させることができます。

